

[試験紹介]

アスパラガスの地上部刈取り時期が 春芽の収量・品質に及ぼす影響

アスパラガスは、葉が完全に黄化し、休眠が深まった時期に地上部を刈り取ることで、根に十分な栄養が蓄えられます。この根への蓄積量が年間の収量性に大きく影響するため、秋季における光合成の確保と、その後の根への転流・蓄積はアスパラガス栽培では重要です。しかし、近年の暖秋の影響により葉の黄化が遅れ、それに伴って地上部の刈り取り時期も遅れる傾向が見られます。その結果、春芽生産に向けた保温作業の開始が遅れ、高単価が期待される早期出荷ができない状況となっています。

そこで、葉の完全黄化前に地上部を刈取った場合の、春芽の収量・品質に及ぼす影響について試験を行っています。刈り取り時期を11月下旬～12月下旬の間で適切な刈り取り時期の検討を進めています。



写真1 黄化前のアスパラガス
(11月上旬)



写真2 黄化途中のアスパラガス
(12月上旬)

(野菜研究室)

[試験紹介]

天敵温存植物を利用した、土着天敵の 誘引活用技術の確立に取り組んでいます

ほ場やその周辺には、多様な生物の天敵が生息しており、これらは「土着天敵」と呼ばれます。特に本県の主要作物である麦類のほ場では、アブラムシ類の土着天敵であるヒラタアブなどが多く見られます。

これらの土着天敵を、近隣の露地野菜ほ場へ誘引、定着させるため、天敵温存植物（天敵の生息や増殖を目的に栽培する植物）を活用した試験を行っています。昨年度の試験では、ほ場周縁に天敵温存植物を播種したナスほ場（試験区）において、非選択性殺虫剤を定期的に散布したほ場（対照区）と比較し、夏季のアザミウマ、アブラムシ、ハダニの密度が低く抑えられることが確認されました。

昨年度の試験結果を受け、引き続き天敵温存植物の導入が、土着天敵と害虫の密度推移に与える影響を調査し、本県に生息する土着天敵を効果的に活用する方法について検討します。



写真1 試験ほ場の天敵温存植物（スイートアリッサム）に飛来したヒラタアブ成虫

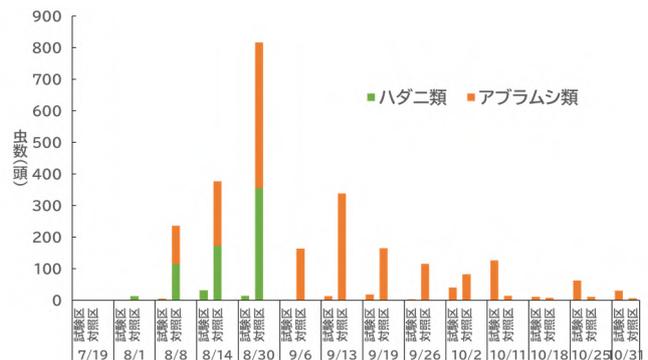


図1 試験区及び対照区における発生害虫数

(病理昆虫研究室)